

平成 29 年度第 1 回常務理事会議事録

日 時： 平成 29 年 7 月 21 日（金） 15：00～16：35

会 場： 日本産科婦人科学会事務局会議室

出席者：

理事長：藤井 知行

副理事長：木村 正、八重樫 伸生

常務理事：青木 大輔、岡本 愛光、榎本 隆之、加藤 聖子、北脇 城、吉川 史隆

監 事：岩下 光利、櫻木 範明、平松 祐司

特任理事：海野 信也、大須賀 穰、荻田 和秀

顧 問：小西 郁生

理事会内委員会委員長：工藤 美樹、生水 真紀夫、千石 一雄、山田 秀人

総会議長：光田 信明

総会副議長：久具 宏司、田村 秀子

幹事長：阪埜 浩司

副幹事長：梶山 広明

幹 事：岩瀬 春子、上田 豊、織田 克利、加藤 育民、河野 康志、岸 裕司、木村 文則、
桑原 章、桑原 慶充、佐藤 美紀子、澤田 守男、関根 正幸、寺尾 泰久、
西ヶ谷 順子、西郡 秀和、平田 英司、諸隈 誠一、矢内原 臨、山上 亘

事務局：桜田 佳久、青野 秀雄

15:00 理事長、副理事長、常務理事 11 名のうち 9 名が出席し(苛原稔理事、竹下俊行理事は欠席)、定足数に達しているため、藤井知行理事長が開会を宣言した。議事録署名人には理事長、監事の計 4 名を選任し、これを承認した。続いて、平成 28 年度第 5 回常務理事会議事録を確認した。

I. 業務担当常務理事報告

1) 総 務 (青木大輔理事)

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向 なし

(2) 無痛分娩事故の遺族よりの要望書を受領した。厚生労働省、日本産婦人科医会、日本産科麻酔学会および本会あてに、無痛分娩が原因と疑われる医療事故およびヒヤリハットの調査および事故防止のための医療体制の充実を求めている。〔資料：総務 1〕

藤井知行理事長「これについては日本産婦人科医会が調査を行っていると聞いている。現在のところ、無痛分娩はよくないという方向の論調が多いこと、麻酔は麻酔科がいないとかけられないとなると日本のお産への影響は大きいこと、など懸念される点もある。」

田村秀子副議長「産科医 1 名の施設で分娩を行わないようにという記者会見が 7 月末に京都で行われるとのことである。医会としても状況を静観している。」

藤井知行理事長「この要望書については、その主旨を常務理事会メンバーで共有した。今後は厚生労働省や医会と連携しながら本会としても適切に対応をしていきたい。」

- (3) 人工中絶患者代理人の三木恵美子弁護士から、相手方の医師について、母体保護法 14 条に定める指定取り消しを求める申し立てを神奈川県医師会に対して行った旨の通知を受領した。

[資料：総務 2]

青木大輔理事「神奈川県医師会の問題として考えるべきかと思う。」

(4) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会

第 1 回生殖・内分泌委員会を 6 月 22 日に開催した。

(ロ) 婦人科腫瘍委員会 特になし

(ハ) 周産期委員会

①講談社より、マンガ『コウノドリ』を基にした書籍についての監修依頼があり、周産期委員会で対応することになった。

(ニ) 女性ヘルスケア委員会

①ホルモン補充療法ガイドライン 2012 頒布状況

7 月 13 日現在、9,302 冊。

②低用量経口避妊薬、低用量エストロゲン・プロゲステン配合薬ガイドライン 2015 頒布状況

7 月 13 日現在、4,788 冊。

③厚生労働省医薬品審査管理課に本会の意見を提出したレボノルゲストレルについて、同課から本会に 7 月 26 日に開催される「医療用から要指導・一般用への転用に関する評価検討会議」で参考人としての出席を求めてきた。本会からの意見提出に関わった矢野哲先生に出席をお願いすることとした。

北脇城委員長「この検討会議では、緊急避妊薬を OTC 化しようとの検討を行っているが、本会としては反対の立場を取っている。」

(5) 平成 30 年度日本産科婦人科学会日程表について

平成 30 年度日本産科婦人科学会日程表について、平成 30 年度第 4 回常務理事会の日程変更（平成 30 年 11 月 2 日→11 月 9 日）の提案があった。日程をご確認いただき、追加の変更も加えて 8 月 26 日の第 2 回理事会で確定させたい。[資料：総務 3]

〔Ⅱ. 官庁関係〕

(1) 厚生労働省

①厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課より、平成 29 年度健やか親子 21 全国大会（平成 29 年 10 月 25～27 日、宮崎・メディキット県民文化センター）の後援名義使用依頼を受領した。例年の依頼であり経済的負担もないため、本件応諾したい。[資料：総務 4]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

- ②厚生労働省雇用均等・児童家庭局より、7月5日からの大雨により被災した妊産婦及び乳幼児等に対する支援のポイント、各種母子保健サービスの取扱いについての周知依頼があった。本会ホームページに掲載して会員に周知した。[資料：総務5、6]

- ③厚生労働省医薬・生活衛生局安全対策課より、重篤副作用疾患別対応マニュアルのホームページ掲載についての連絡があった。本会ホームページに掲載して会員に周知したい。
[資料：総務7]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

- ④厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課および健康局結核感染症課より、日本におけるオウム病症例発生状況と妊娠女性におけるオウム病についての情報提供があった。本会ホームページに掲載して会員に周知したい。[資料：総務8]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

- ⑤厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課より、新生児マススクリーニング検査の対象疾患の追加についての周知依頼があった。本会ホームページに掲載して会員に周知したい。
[資料：総務9]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

- ⑥厚生労働省 医薬・生活衛生局 食品基準審査課および食品監視安全課より、プエラリア・ミリフィカを含む健康食品の取扱いについての周知依頼があった。本会ホームページに掲載して会員に周知したい。[資料：総務9-1]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

〔Ⅲ. 関連団体〕

(1) 日本医学会、日本医学会連合

- ①日本医学会役員選挙が行われ、本会の小西郁生先生が幹事（日本医学会連合では理事）となった。[資料：総務10]
- ②日本医学会より、評議員・連絡委員・用語委員・用語代委員の選出依頼を受領した。
評議員を藤井知行先生、連絡委員を万代昌紀先生、用語委員を竹下俊行先生、用語代委員を久具宏司先生にお願いしたい。任期は平成29年6月16日から平成31年6月定時総会開催日までである。[資料：総務11]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

③日本医学会を通して、厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課より、組織再編等に伴い変更となる様式について周知依頼があった。本会ホームページに掲載して会員に周知したい。

[資料：総務 11-1]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) 日本助産師会

公益社団法人日本助産師会から、連携医療機関の確保の実態把握と都道府県助産師会が行う相談・支援の取り組みについて検討する「助産所における連携医療機関確保推進検討委員会」に本会から委員を出してほしいとの依頼があった。本件は周産期委員会で対応を検討する。

[資料：総務 12]

(3) 日本周産期・新生児医学会

日本周産期・新生児医学会から、周産期登録事業データの利用に関する要望書を受領した。本件は倫理委員会臨床研究審査小委員会に検討を依頼したい。[資料：総務 12-1]

(4) 国立成育医療研究センター

国立成育医療研究センターから、妊娠と薬情報センターフォーラム（2017年10月1日、京王プラザホテル）の後援名義使用依頼を受領した。フォーラムの主旨を考慮し、経済的負担もないため、本件応諾したい。[資料：総務 13]

(5) 日本法医学会

日本法医学会から、平成29年度版死亡診断書（死体検案書）記入マニュアルに関する声明文を受領した。厚生労働省が発行した同マニュアルには重大な問題があるとして、このマニュアルに沿った記載を行うように促している本会の活動を一時中止するように求めている。

[資料：総務 14、15]

藤井知行理事長「妊産婦死亡の状況が正確にわからないため厚生労働省に依頼してマニュアルに入れてもらった経緯がある。日本法医学会の意見は本会の立場とは全く異なるので、意見として受け取るに止めることにしたい。」

木村正副理事長「マニュアルの中の表現にはあいまいな部分もあり、そこは修正した方がよいかもしれないが、妊産婦死亡をきちんと登録するという主旨は大事なので取止めというのは難しい。」

藤井知行理事長「法医学的にはこの意見は正しいかもしれないが、運用としては妊産婦死亡の状況を把握できることは重要である。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6) 日本輸血・細胞治療学会

日本輸血・細胞治療学会から、本会、日本心臓血管外科学会および日本輸血・細胞治療学会の、三学会合同特別討論会（フィブリノゲン製剤の適応拡大の条件は何か）への参加依頼を受領した。本会内で検討して日本輸血・細胞治療学会のシンポジウムで結果発表してほしいとのことである。

[資料：総務 16]

木村正副理事長「周産期委員会にはある程度のデータがあると思う。」

藤井知行理事長「分析等が必要になるが、周産期委員会に対応をお願いしたい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(7) 日本看護協会

公益社団法人日本看護協会は「院内助産・助産師外来ガイドライン」についての見直しを行うことになった。そのための検討委員会を立ち上げるにあたって藤井知行先生に委員就任の依頼があり、これを応諾した。

藤井知行理事長「ガイドラインなので、本会としても一定の関与をしておくのがよいと考えた。」

(8) 健やか親子 21

健やか親子 21（第 2 次）のうち、テーマ 1「国民への普及啓発・情報発信等」の担当幹事が梶山広明先生から矢内原臨先生に、テーマ 4「調査研究やカウンセリング体制の充実・ガイドラインの作成等」の担当幹事が川名敬先生から織田克利先生に交替することになった。

(9) 禁煙推進学術ネットワーク

禁煙推進学術ネットワークの本会代表委員を石谷健先生をお願いしたい。また今回同ネットワークに設置される「喫煙から子どもを守る小委員会」に本会も参加することとしたい。

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

[IV. その他]

(1) NPO 法人 Fine より、Fine 祭り 2017（10 月 1 日大阪、22 日東京、29 日札幌、11 月 19 日名古屋、12 日仙台、12 月 3 日福岡）の後援名義使用依頼を受領した。経済的負担はなく、例年の依頼であり、これを応諾したい。

(2) 協和発酵キリン株式会社から、アドリアシン、パセトシン、アセチルスピラマイシンの製造販売承認承継およびダカルバジンの販売移管のお知らせを受領した。[資料：総務 17]

2) 会 計（吉川史隆理事） 特になし

3) 学 術 (木村正副理事長)

(1) 学術委員会

(イ) 会議開催

①第2回学術委員会を8月25日に開催する。

(ロ) 他団体特別賞推薦依頼について

①「朝日賞」について、各理事、学術委員会委員に推薦を依頼した。

(2) プログラム委員会関連

(イ) 第70回学術講演会プログラム委員会

藤井知行理事長「会期中にマラソン大会があるそうだが、宿泊は大丈夫か。」

八重樫伸生第70回学術集会長「最終日に仙台マラソンが開催されるが、参加者は宮城県中心なので宿泊には問題ないと考えている。」

(ロ) 第71回学術講演会プログラム委員会

(ハ) 第72回学術講演会プログラム委員会

4) 編 集 (加藤聖子理事)

(1) 会議開催

7月21日	編集会議
-------	------

(2) 英文機関誌 (JOCR) 投稿状況 : 2017年投稿分 (6月30日現在)

2017年 JOGR 投稿状況 2017年6月30日現在

投稿数	756
Accept	44
Reject	411
Withdrawn/Unsubmitted	93
Under revision	27
Under review (審査中)	180
Expired	1

2016年 JOGR 投稿状況 2017年6月30日現在

投稿数	1,473
Accept	290
Reject	1,052
Withdrawn/Unsubmitted	104
Under revision	4
Under review (審査中)	11
Expired	12

加藤聖子理事「インパクトファクターについて、2016年は1.086だった。2014年のcitationは449件だったが2015年は260件であり、このままで行くとインパクトファクターは1を切る可能性がある。他の雑誌に出す場合も JOGR の論文を引用するようにお願いしたい。」

5) 渉 外 (岡本愛光理事)

[会議開催]

(1) 8月25日に第2回渉外委員会を開催の予定である。

[FIGO 関連]

(1) 7月11～12日にロンドン FIGO House にて開催の Constitution meeting に木村副理事長が出席した。[資料：渉外1-1]

木村正副理事長「ポイントは、英国の法律に沿って執行部の権限を強めて理事会は助言機関の位置付けにする、World Congress と執行部のサイクルを2年周期にする、それに伴い世界を5区域から8区域に分ける、などである。2018年のリオデジャネイロ総会で承認されればすぐに適用とのことである。根回しもなくかなり強引な決め方なので、総会では揉める可能性はある。今後、日本がオフィサーをやって行くのであれば、その方は現役の教授でない方がいいのかもしれない。」

[AFOFG 関連]

(1) 9月30日にマレーシア ペナンで開催の AFOFG Action Plan meeting に本会より、加藤聖子編集担当常務理事、落合和徳 AFOFG President elect、万代昌紀 AFOFG Committee Chair を派遣予定である。

(2) AFOFG President および Secretary General からのレターを受領した。AFOFG 事務局がマニラからコロンボへ移転する旨の通知を含んでいる。[資料：渉外1]

[日韓台関連]

(1) TAOG より、XXII FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics (2018年10月14～19日、於：ブラジル リオデジャネイロ) のプログラムとして No-Fault Compensation に関する日台の Session を提案する為、スピーカーを推薦してほしいとの依頼を受けた。

藤井知行理事長「韓国はこれに参加しないのか。」

岡本愛光理事「興味を持っていないとのことである。」

岩下光利監事「台湾は産科医療補償制度に関心を持っていて、先般の AOCOG の際もセッションを設けたがっていた。」

木村正副理事長「FIGOの正式な提案が来た時には、これとは別のセッションを組むことも含めて韓国に声をかけてもよいかもしれない。」

藤井知行理事長「スピーカーの推薦については、渉外に一任したい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

[OGSS 関連]

(1) OGSS との Exchange Program スピーカーとして、産業医科大学若松病院産婦人科診療教授 吉村和晃先生、および聖マリアンナ医科大学産婦人科准教授 長谷川潤一先生を 2018 年 3 月 21～24 日シンガポールにて開催の RCOG World Congress 2018, Joint RCOG/OGSS Event に派遣の予定である。

[国際協力機構 (JICA) / 草の根技術協力事業 (草の根パートナー型) 「工場労働者のための子宮頸がんを入口とした女性のヘルスケア向上プロジェクト」 関連]

(1) 6 月プノンペン派遣報告 [資料: 渉外 2]

(2) 7 月末～8 月に松本安代医師をプノンペンへ派遣の予定である。

6) 社 保 (北脇城理事)

(1) 会議開催

7 月 21 日の常務理事会後、第 1 回社会保険委員会を開催予定である。

(2) 平成 30 年度診療報酬改定提案に関する厚生労働省ヒアリングにて、「子宮悪性腫瘍手術(広汎切除)(腹腔鏡下)、および「産後うつ状態、産後うつ病の予防と治療に伴う産婦人科、精神科、小児科連携のための紹介元加算・紹介先診療加算の新設」の提案について説明する予定である。

木村正副理事長「産後うつの紹介加算について、院内で診療連携をした場合は加算されるのか。」

北脇城理事「地域間で予めコミュニティを作っておいてコンファレンスなどを行っている場合には紹介加算が付くということである。」

(3) 平成 29～30 年度、本会選出による委員を以下の通り委嘱したい。

【外保連】

- ・実務副委員長：西井修副委員長
- ・手術委員：西井修副委員長、久布白兼行委員
- ・処置委員：澤田守男主務幹事
- ・検査委員：甲賀かをり委員
- ・麻酔委員：板倉敦夫委員

- ・規約委員：宮崎亮一郎委員
- ・広報委員：西井修副委員長
- ・検査委員会画像診断試案作成 WG 委員：市塚清健委員
- ・手術委員会医療技術の新しい評価軸検討 WG 委員：光田信明委員

【内保連】

- ・西洋孝委員（女性診療科関連委員会委員長）
- ・齊藤寿一郎委員
- ・橋口和生委員
- ・山上亘委員
- ・白須和裕委員（IC 委員会委員）

【医会医療保険委員会】

- ・北脇 城委員長
- ・澤田守男主務幹事

【日本医師会疑義解釈委員会】

- ・落合和徳オブザーバー

(4) 核酸増幅法による先天性サイトメガロウイルス感染診断技術の保険収載について
尿中 CMV ウイルス検査の保険承認を求める要望書を厚生労働大臣あてに提出したい。

[資料：社保 1]

藤井知行理事長「日本小児科学会や日本産婦人科感染症学会などと連名での提出も考えている。」
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

7) 専門医制度（八重樫伸生副理事長）

(1) 会議開催

8月24日に平成29年度筆記試験問題評価委員会を開催する予定である。

(2) 平成29年度専門医認定二次審査

東京会場（日本都市センター）と大阪会場（千里ライフサイエンスセンター）で、7月22日に筆記試験（東京会場228名、大阪会場187名）、23日に面接試験（東京会場199名、大阪会場163名）を実施する予定である。

(3) 指導医申請について [資料：専門医 1]

指導医申請について5月1日から5月31日までの申請期間で273名申請があった。研修委員会で通信委員会を行った。

(4) 各都道府県地方委員会委員長宛に専門医共通講習必修のアラート文面を作成した。

[資料：専門医 2]

八重樫伸生副理事長「共通講習についての考え方が各都道府県によって異なっており、産婦人科に特化したものを共通講習にしないように通知をすることになった。」

(5) 会員専用ページ（e医学会マイページ）上でのクレジット決済機能追加ならびに日本専門医機構単位が付与されるeラーニング動画の公開を予定している。[資料：専門医3]

八重樫伸生副理事長「eラーニングを受けて5,400円（税込）を払うと単位として認められる方式で、専門医機構の更新申請が一段落する10月11日からのスタートを予定している。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

平松祐司監事「eラーニングについての制限はかけているのか。」

八重樫伸生副理事長「eラーニングによる獲得単位の上限は決めている。」

阪埜浩司幹事長「会員専用ページ上でクレジット決済機能が追加されるので、寄附や事前参加受付、有料セミナーなど、本会に入金が必要となるケースに広くこの機能が利用できる。」

八重樫伸生副理事長「他学会では、学術集会で単位を付与する度に課金されるところもある。今後、委員会でも検討していきたい。」

平松祐司監事「本会の収益面、学術集会への参加者数にも影響する事項のため、多角的に検討して進めてほしい。」

(6) 日本専門医機構

① 6月26日に第3回専門医認定・更新部門委員会、基本領域専門医委員会／合同委員会が開催され、八重樫伸生副理事長が出席した。

② 6月29日に第1回社員総会が開催され、西郡秀和主務幹事が出席した。

③ 2018年度日本専門医機構認定産婦人科専門医の更新基準は2018年4月30日までで、現行では2018年5月に開催される第70回学術講演会は含まれないが、2018年度申請者は「2018年5月に行われる第70回日本産科婦人科学会学術講演会で取得した機構単位はこれに含めてよい」と修正した更新基準を機構へ提出し、審査を依頼した。

藤井知行理事長「日本専門医機構からは、プログラムについて都道府県協議会と基幹施設で直接やり取りすることは認めざるをえないが、実際にプログラムを変える場合には機構と学会が関与することで協議が進んでいるとの説明があった。」

8) 倫理委員会（苜原稔委員長欠席につき、桑原章主務幹事）

(1) 本会の見解に基づく諸登録（平成29年6月30日）

① ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：71 研究

② 体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：605 施設

③ ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：605 施設

④ 顕微授精に関する登録：564 施設

⑤ 医学的適応による未受精卵子、胚（受精卵）および卵巣組織の凍結・保存に関する登録：74 施設

⑥ 提供精子を用いた人工授精に関する登録：12 施設

(2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について

7月10日現在申請665例 [承認570例、非承認16例、審査対象外36例、取り下げ5例、照会19例、保留7例、審査中12例]（承認570例のうち20例は条件付）

(3) 「臨床研究審査小委員会」報告事項

①川端伊久乃会員より、日本産科婦人科学会周産期登録データベース使用申請があった、「日本人の地域別食生活の背景と自然早産・妊娠高血圧症候群発症との関係」について審査を行い、6月23日に審査結果（承認）を報告した。〔資料：臨床審査1〕

②京都大学大学院医学研究科社会医学系専攻健康情報学 中山健夫教授（非会員）、研究分担者京都大学 万代昌紀会員より、日本産科婦人科学会周産期登録データベース使用申請があった、「帝王切開既往妊娠の経膈分娩試行と子宮破裂の発生」について審査を行い、6月23日に審査結果（承認）を報告した。〔資料：臨床審査2〕

(4)NIPT コンソーシアムからの要望書について 〔資料：倫理1、2〕

桑原章幹事「登録施設でないにも拘わらずNIPTを実施している施設への注意および患者さんへの説明を行いたいという内容である。」

久具宏司副議長「問題の施設はNIPTを実施後、何も説明を行わないため患者さんが困って登録施設に来てカウンセリングを求めるケースが出ているようである。これは患者さん全体に係る問題なので本会に要望書を出してきたものである。」

藤井知行理事長「この要望書の内容はわかりにくいので、NIPT コンソーシアムの意見を倫理委員会で確認した上で、本会として患者さんに何を伝えて行くべきなのかを検討していただきたい。」

木村正副理事長「この要望書を受けて、本会としての考え方を患者さんに示すようにすべきであろう。混乱の原因である情報不足対応と遺伝カウンセリングの必要性について記述すると一般の方にもよりわかりやすい文章になると思う。」

本件は倫理委員会での検討をもとに本会の対応を決めることについて、特に異議はなく、全会一致で承認された。

工藤美樹学会側調整役「NIPTを実施できる施設は今後は広がって行くということか。そうならなるとこの問題は会員のなかでも何がどう進んでいるのか分からない。」

小西郁生顧問「NIPTは次の段階に進むべきところに来ている。指針を改定するにあたって、今後どのような体系にしていくかを本会で十分に議論しておく必要がある。」

(5) 会議開催

- ① 7月25日に「平成29年度第2回着床前診断に関する審査小委員会」を開催する予定である。
- ② 7月28日に「PGT-A実務者会議」を開催する予定である。
- ③ 8月1日に「登録・調査小委員会（集合会議）」を開催する予定である。
- ④ 8月8日に「臨床研究審査小委員会」を開催する予定である。
- ⑤ 8月10日に「平成29年度第2回倫理委員会」を開催する予定である。

9) 教育（竹下俊行理事欠席につき、寺尾泰久主務幹事）

(1)会議開催

7月10日	2019 必修知識編集委員会
-------	----------------

(2) 書籍頒布状況 7月13日現在

電子版(iOS版並びにAndroid版タブレット端末専用):ダウンロード

用語集単体	238
必修知識2013+用語集	206
産婦人科研修の必修知識2016-2018	712

書籍版:7月13日現在

	入金済み(冊)
産婦人科研修の必修知識2016-2018	802
産婦人科研修の必修知識2016-2018 電子版付き	431
産婦人科研修の必修知識2016-2018+例題と解説集	505
産婦人科研修の必修知識2016-2018 電子版付き+例題と解説集	658
用語集・用語解説集改訂第3版	3,279
若手のための産婦人科プラクティス【販売中止】	3,267
専門医試験例題と解説2014	1,221
専門医試験例題と解説2015	1,106
専門医試験例題と解説2016	175
専門医試験例題と解説2017	165

(3) 日本産科婦人科学会若手医師育成奨学基金による海外派遣者募集

2018年ドイツ(10月31日~11月3日 62. DGGG-Kongress 参加、その後2週間程度現地で研修予定:派遣予定3名)の募集を開始した。締切:2017年8月31日学会事務局必着。各大学に募集要項を発送するとともに学会ホームページにも案内を掲載した。

(4) ICD-11について

6月29日に第20回社会保障審議会統計分科会 疾病、傷病および死因分類専門委員会(於 厚労省)に池田仁恵先生が出席し、9月末までに下記意見をまとめてほしいとの要請をされた。

- ①今後のICD-11に対する加盟国からWHOへの意見提出に関し、総論的な課題は、ICD委員会等の審議組織を経て厚労省から提出されるが、個別の課題については、本年9月末までに、専門的なエビデンスに基づいて各学会から直接WHOへ提案(改正提案プラットフォームに意見提出)してほしいという趣旨の説明があった。この件に関し、周産期・婦人科腫瘍・生殖・女性ヘルスケアの各分野の先生方から意見をいただく必要があり、各専門委員会に意見を伺うこととしたい。

岩下光利監事「2011年にICDの委員をやったが、その際にも各学会に要望を聞いたが生殖がほとんど入っていなかった。厚生労働省はICD-11をもとに新しいコーディングを作ろうとしているので、しっかり提案を出すようお願いしたい。」

②9月1日と2日、厚生労働省でWHOの方との意見交換の場が設けられる予定であり、ICD委員(池田仁恵先生)は出席するが、日本産科婦人科学会からの出席をどうするか決める必要がある。

寺尾泰久幹事「本件は専門委員会と協議して出席の可否を決めたい。」

(5) 必修知識 2019 版について

各分野から提出された案をもとに項目立ての見直しを行った。各大学宛に 2016-2018 版の見直しならびに新たな執筆をお願いしたい。

(6) 専門医試験問題作成に関して

◇平成 29 年度

①筆記試験問題作成：各分野から提出いただいた最終案について、さらに平成 29 年度専門医試験問題作成委員会委員長・副委員長・主務幹事にて見直しを行い、原稿を取りまとめた。

②ロールプレイ問題作成：平成 29 年度専門医試験問題作成委員会主務幹事より専門医制度委員会に提出した。

③平成 29 年度専門医認定筆記試験問題作成委員会委員氏名の公示

学会機関誌 11 月号に専門医試験合格者氏名とともに掲載し、謝意とする。

◇平成 30 年度

平成 30 年度専門医認定筆記試験問題作成委員について調整を行っている。

10) 地方連絡委員会（八重樫伸生委員長）特になし

II. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会（榎本隆之委員長）

(1) 会議開催

第 1 回広報委員会を 7 月 21 日（金）13：00～14：30 に開催した。

(2) JOB-NET 公募情報について

①JOB-NET 事業報告 [資料：広報 1]

(3) ホームページについて

①ホームページアクセス状況について[資料：広報 2]

②会員専用ページに、第 69 回学術講演会専攻医教育プログラムの動画を e ラーニングとして掲載した。

(4) ACOG Website 会員専用ページログイン人数について [資料：広報 3]

ACOG Website 会員専用ページの契約は 7 月末日で現在の契約期間が終了するが、8 月からの次の 1 年間について、以下の昨年同様の形式で ACOG と合意した。

来年度ログイン可能見込みの人数（契約数）15,000 名とし、1 名 1 ドルで 15,000 ドルとするが年度内にログイン可能人数が契約数を超過しても追加請求はしない。

（なお、6 月末時点ログイン可能人数 14,738 名、昨年で 700 名増加のため、数カ月で超過が想定される。）

2) 震災対策・復興委員会（村上節委員長欠席につき、西ヶ谷順子主務幹事）

(1) 九州北部豪雨への対応 [資料：震災対策 1]

村上節委員長、津田尚武委員により情報収集を行った。

西ヶ谷順子幹事「被災地の産婦人科施設には被害がなく、本会からの対応は行わなかった。」

(2) 大規模災害対策サイトについて [資料：震災対策 2]

① 厚労科研『災害時小児・周産期医療体制の構築と認知向上についての研究』班と共同してシステムの改良をすすめている。

- 1) 日産婦学会会員以外の災害対策担当者が、訓練時や災害時にシステムに入ることを可能にするためのID・パスワードの付与
- 2) 日本周産期新生児医学会の会員専用HPからシステムに入ることを可能にするための改修
- 3) 災害時小児医療領域情報を共有するための掲示板機能の設置

② 7月29日の内閣府訓練（南海トラフを想定した訓練）の際に当システムを使用することで協力する予定である。訓練当日および準備日のヘルプデスク対応を事務局で行う予定である。

3) 診療ガイドライン運営委員会（工藤美樹学会側調整役）

(1) 産科編委員会（板倉敦夫委員長）

①会議開催 なし

②「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2017」頒布状況について（7月13日現在）

書籍版：5,857冊

書籍版+ID/PW付き：1,257冊

電子版ダウンロード：1,108件

(2)産科編評価委員会（田中守委員長） 特になし

(3) 婦人科外来編委員会（小林浩委員長）

①会議開催 なし

②「産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編 2017」頒布状況について（7月13日現在）

書籍版：3,602冊

書籍版+ID/PW付き：1,480冊

電子版ダウンロード：974件

(4) 婦人科外来編評価委員会（若槻明彦委員長） 特になし

工藤美樹学会側調整役「ガイドラインを薄くするために産婦人科研修の必修知識にガイドラインの解説内容を一部移行するというアイデアがある。教育委員会や日本産婦人科医会とも調整していった

い。」

吉川史隆理事「ガイドラインはミニマムリクワイヤメントが書かれていけばよいので、ぜひ薄くしていただきたい。」

八重樫伸生副理事長「産婦人科研修の必修知識については、ちょうど改定内容を固めているところであり、早急に相談した方がよい。」

4) コンプライアンス委員会（山田秀人委員長） 特になし

5) 医療改革委員会（海野信也委員長） 特になし

6) 男女共同参画・ワークライフバランス改善委員会（千石一雄委員長）

(1) 会議開催

8月24日に第1回男女共同参画・ワークライフバランス改善委員会を開催予定である。

(2) 男女共同参画・ワークライフバランス改善委員会ホームページについて

①わたしのON/OFFに多くの先生方のご協力を頂いて記事を追加掲載

今年も新しく理事になられた先生方にはご協力をお願いしたい。

②大阪大学医学部産婦人科に所属する女性医師約80名を対象にしたアンケート調査の報告書を掲載予定

③未来委員会との共同委員会企画「イクボスのはじめかた」の記事を掲載予定

7) 産婦人科未来委員会（生水真紀夫委員長）

(1) 会議開催

7月14日	第11回産婦人科サマースクール打合せ会ならびに実技指導講習会
-------	--------------------------------

(2) 産婦人科サマースクールについて

2017年6月18日延長締切り

医学部5年生	61名
医学部6年	37名
初期研修医1年目	148名
種別記載なし	7名
	253名

プログラム内容については、若手WGならびに実行委員会において、準備を進めている。

生水真紀夫委員長「今回は全員参加できるように準備をしている。参加費の未振込みの方には早めに納付するように連絡していただきたい。」

(3) 産婦人科スプリング・フォーラムについて

産婦人科未来委員会委員長はじめ関係WG委員で協議の結果、来春のスプリング・フォーラムは

会期：2018年3月10日（土）11日（日）

会場：淡路夢舞台国際会議場

を予定したい。

(4) プラスワンプロジェクトPOP2について

次回については、東京ではなく近畿圏などで開催したいという要望もあったが、日程の関係から下記のとおりとしたい。

会期：2018年5月26日（土）、27日（日）

会場：フクラシア東京ステーション

(5) 新規若手委員募集について

産婦人科未来委員会の若手委員10名の任期(2年間)が終了するため、新規委員の公募を行いたい。

募集人数：10名

応募資格：医学部卒業が平成20年～23年度で、上記の委員会業務を完遂できる方

申し込み期間：平成29年7月15日～平成29年8月末日（日本産科婦人科学会事務局必着）

委員の選任は9月中に行い、10月からの活動を委嘱したい。

(6) WATOGからのアンケート依頼

卒後10年目までの産婦人科医に対して、The World Association of Trainees in Obstetrics & Gynecology（WATOG）より超音波検査に関するアンケート協力依頼が届いたので広報委員会に一斉配信をお願いした。

8) 女性活躍のための健康推進委員会（大須賀穰委員長）

(1) 会議開催 なし

(2) 2018年女性の健康週間イベントとして、3月7日（水）、8日（木）の2日間に渡り、日経カンファレンスルームにて丸の内キャリア塾スペシャルセミナーを開催の予定である。

9) 医療安全推進委員会（村上節委員長） 特になし

10) 公益事業推進委員会（八重樫伸生委員長） 特になし

11) 児童虐待防止のための女性支援委員会（荻田和秀委員長） 特になし

Ⅲ. その他

藤井知行理事長「厚生労働省に出向する場合のネックになっていた兼業禁止ルールが外れることになった。出向は本人にとって意味があると思うので、ぜひご協力をお願いしたい。」

以上